おぼん

東部小・２　伊藤　しゅう

ぼくのおじいちゃんは、十一年前にしんでしまいました。しごとがおわってから火じになって、やけどをしてしんだそうです。今年、ぼくは、おばあちゃんのお手つだいをしようと、八月十三日から十五日まで、毎日おばあちゃんの家へ行きました。

十三日の日は、おじいちゃんが家へ帰ってくるので、ぶつだんの前にちょうちんをかざりました。そして、馬と牛もかざりました。おじいちゃんは、その馬にのって帰ってくるそうです。

その日は、雨がふっていたので、午後二時ごろ、ちょうちんをもって、車にのっておはかまで行きました。おはかについたら、おばあちゃんが、ろうそくに火をつけて、ちょうちんの中に入れました。おばあちゃんが、

「おじいちゃんが、ちょうちんの中にいるから、つれて帰るよ。」

と言いました。ぼくたちは、家につくと、ぶつだんにお水をあげました。ぼくは、心の中で、おじいちゃん、お帰りと思いました。

夜ごはんを食べる前に、ぶつだんのおじいちゃんにもごはんをあげました。馬と牛にもあげました。ぼくは、

「おじいちゃん、ゆっくり休んでね。」

と言って、自分の家へ帰りました。

ぼくは、つぎの日もおばあちゃんの家へ行って、ごはんをおそなえしました。

十五日は、おじいちゃんが、おはかに帰る日です。夕方、さいごの火をたきました。おばあちゃんが、花火を買ってくれていたので、お父さん、お母さん、弟といっしょに花火をしました。花火をしながら、心の中で、おじいちゃん、また、来年ねと言いました。おばあちゃん、毎日、ぶつだんに、お水とごはんをおそなえしてくれて、おつかれさまでした。ぼくは、来年もおばあちゃんのお手つだいをしたいです。

３・９